

＝市民の声募集中＝

《問い合わせ先》議会広報特別委員会
☎42-6310

市民の声

市政に思う

今回は江田島市地域おこし協力隊の皆さんに市民の声を
お願いしました。

江田島市地域おこし協力隊
はフェイスブックで情報を
発信しています。



江田島市地域おこし協力隊
QRコード

江田島市で 生きる喜びを 伝えていきたい

オリーブ栽培
技術指導員

阿部 智宏



江田島市が4町合併で誕生して、今年で16年目になりました。私が海田高校へ通っていた頃、江田島町は同じ安芸郡でしたが、最初に訪れたのは能美島であり、再びご縁をもらい住んでいるのは沖美町です。江田島市は全体的に人口が減っていますが、私の住んでいる是長は、僅かながら若い人が増えています。新型コロナウイルスの影響もあり、リモートワークを導入する会社が増加傾向にあり、

たまに通勤するという生活が確立されれば、これからは交通の利便性よりも、生活環境をポイントとして選ぶ人が増えてくると思います。そういう意味では沖地区の、海と山に囲まれたロケーションは理想的なのですが、惜しむべくは海岸の道路沿いに手入れのされていないまま雑草や雑木林が多く茂っており、景観を損ねていることです。その土地を私が伐採し、抜根・耕耘せずに微生物を

生かした土壌で、低木栽培地に置き換えることができれば、道を通るだけでも観光になり、地域の活性化や雇用の創出にもつながると考えています。また、江田島市が一体となった、えたじまブランドでの6次産業化も重要な課題です。個人的には宇山の小麦粉とオリーブでお好み焼きやご当地ラーメンを、また生産者さん達のアイデアを反映した商品化に協力し、新たな販売のプラットフォーム

江田島市への 移住

プロモーション推進員
牛尾 奈緒子



私は広島市内で生まれ育ち、大学進学時に上京し協力隊となり、江田島へ移住してきました。幼い頃に訪れていた江田島気づけば最後に訪問してから20年近く経っていました。江田島に来てから、なぜ東京での生活をやめて移住をしたのかとよく聞かれます。正直言うと、東京での生活が嫌だったわけでもなく、江田島に憧れがあったわけでもありません。自分でも移住するなんて夢にも思わず、移住を決めたのも協力隊に合格してからの話でした。今でも江田島市役所に自分の席があることが少し不思議に感じる時があります。

ただ、昨年、江田島へ訪れた際に独特の雰囲気魅せられ、移住者の方のお話を聞いてワクワクし、気づけば人口や地名・歴史、これまで江田島市が発表している様々な情報を調べていました。私は全国各地の島を旅することが趣味だったので、周りからも「島での暮らし」を勧められていましたが、江田島を訪れてからは「移住するなら江田島で」という気持ちが強まってきて、いつの間にか江田島へ引き寄せられていた気がします。

私の協力隊としての役目は江田島市の魅力を市内外に様々な形で発信していくことです。地域住民の皆さまの好きな「江田島」を体感し、色々な視点から江田島市の魅力を届けられるように活動していきたいと思っていますので、何卒よろしくお願いたします。

美と健康の島で 縁づくり

体験型観光推進員
塚田 忠則



江田島暮らしを始め、市内各所を車で走ったり近所を歩いたりする中で気が付いたのですが、庭先に美しい花木を植えている住宅のなんと多いことか。「きつ」とこの島には豊かで美しい心を持つ方々が多いに違いない」と感動し、3F（フルーツ、フラワー、フィッシュ）の第1次産業に力を入れていく都市だけに花屋も多いと感じています。近所にはネイルサ

ロンもみかけ（今度立ち寄ってみたいと思っております。（笑））、美意識が高い「美と健康の島」との印象です。私の体験型観光推進員としての仕事は、山歩きやサイクリング、果樹の収穫や農作業などの体験を通じて観光を楽しむプログラム作りなのですが、コロナ直後の観光としては「美と健康」にこだわりのキーワードを「DETTOX（解毒）」として

整理してみようと思っています。 「江田島でデトックスする」をスリム化すると「江田島でトクする」となります。（笑） デトックスの語呂合わせ「㊦出会う、㊧泊まる、㊨創る、㊩暮らす、㊪スポーツする」で、オリーブや柑橘類の食文化からマリンスポーツ等の健康活動まで、恵み多き島の体験型観光はこの「デトックス」の単語がま